

令和8年3月25日

令和7年度第8回筑後川水系渇水調整連絡会（幹事会） 確認事項

筑後川流域では、令和7年9月以降月間降水量が6ヶ月連続で平年値を下回っており、特に10月から令和8年2月までの5ヵ月間の降水量は、江川ダムが管理開始された昭和50年（1975年）以降で最少を記録し、平年の46%程度（189.9mm）にとどまっている。（※今回189.9mm、平年値404.1mm）

現在、第4次渇水調整により取水制限の一層の強化を行うことで関係機関と合意を図り対策に取り組んでいるが、いまだ少雨傾向にあり令和8年3月24日時点で主要利水6施設の合計貯水量は12.3%程度と依然として厳しい状況が続いている。

今後、少雨傾向が続きまとまった降雨が無ければ、主要利水6施設貯留水が枯渇し、市民生活及び社会経済活動等への影響が強くなることから、主要利水6施設貯留水延命のための取水制限率強化の検討をせざるを得ない状況となる。

また、筑後川は一年を通し様々な水利用がなされており、今後は水需要の増加を考えていく必要がある。

これらを踏まえ、関係機関は引き続き利水者や住民の方々に対して節水意識の啓発を行い、一層の節水により筑後川からの取水量を低減し、主要利水6施設貯留水の延命に努める。